

海中の生きもの観察&スキndaイブンのスキルアップ体験 at 竹野スノーケルセンター

泉山真寛・東垣大祐・大谷直寛・花谷和志・伊藤波輝（兵庫県立大学環境人間学部）・海田
竜太郎（兵庫県立大学工学部）・中地隆文・竹田瑤平・
江角健太・佐川美咲（兵庫県立大学理学部）

はじめに

本講座は、大学生が兵庫県豊岡市の竹野スノーケルセンターを訪れ、スキndaイブンの体験と海中の生きもの観察を行ったものである。この講座では、兵庫県立人と自然の博物館の和田年史先生をはじめとする、たくさんの先生方にご指導をいただいた。なお、この講座は第1回（2016年の6月4、5日）と第2回（2016年の8月17、18日）の二度にわたって行われ、第1回講座には兵庫県立大学の学生4名と鳥取環境大学の学生1名の計5名が参加し、第2回講座には兵庫県立大学の学生10名と鳥取環境大学の学生1名の計11名が参加した。

講座内容

第1回（2016年の6月4、5日）の講座は、応急救命講習から始まった。その後、和田年史先生に講義をしていただき、スキndaイブンの道具の使い方や、調査の方法などを学んだ。そして講義後にメンバー全員で海に入り、スノーケルやフィンの使い方など基本的なことから、スキndaイブンの欠かせないジャックナイフ泳法などを実践して、技術を身に付けた。海に2時間ほど入った後には、夕食を食べながら先生方のお話を聞くことができた。



写真1 フィンの扱い方を説明する和田先生

2日目の朝には、センターのご好意もありカヌー体験をさせていただいた。その後島根大学汽水域研究センターの原口展子先生から海藻についてのセミナーをしていただき、海藻が緑藻・褐藻・紅藻の3つのグループに分けられることなどを学んだ。そして、2回目のスキndaイブンの体験を行い、講座で教えていただいた海藻について意識をしながら生きもの観察を行った。

第2回（2016年の8月17、18日）の講座では、大学の長期休暇中であることも影響し第1回講座よりも6名多い計11名が参加した。内容は第1回と重なる部分が多いため省略するが、第1回講座と比べて水温が高く、比較的長い時間海に入ることができた。

講座を通じて得たもの

本講座の参加者のほとんどは、スキndaイブンの経験のない初心者であった。しかし、和田先生をはじめとした先生方に懇切丁寧な指導をしていただいたお陰で、恐怖心をあまり感じることなく自然とスキndaイブンを楽しむことができた。1回目の講座では応急救命講習を実施し、いざという時の対応をしっかりと学ぶこともできたうえ、海の危険性についてもしっかりと認識することができた。フィンの操り方に関しても最初は戸惑ったが、実際に海に入的过程中で徐々に慣れていき、コツをつかむことができた。海には非常にたくさんの生きものがおり、私たちは網を持って様々な生きものの採集

を試みた。ウミウシやヒトデなどの生きものは、見つけることさえできれば比較的容易に捕まえることができたが、魚の採集は非常に難しかった。

先生方のセミナーでは、竹野の大浦湾にいる生きものについて海へ入る前に予習をし、また今まであまり意識をしたことが無かった海藻についても学ぶことができた。セミナー後に海へ入ることで、学んだことについて実際に確認をすることができたのが印象的である。



写真 2 潜水する参加者



写真 3 発見した生きもの



写真 4 発見した生きもの2

地元兵庫への思い

メンバーの多くは兵庫県南部や他県出身者であり、県内の日本海側の環境に触れた経験が無い人がほとんどであった。そのため、実際に日本海でスキンドビングを経験した中で多くのメンバーが抱いた感想は、こんなにきれいな海が兵庫県にもあるのかという驚きであった。兵庫県は、日本海と瀬戸内海という全く趣の違う海を持っている。この2つの海は共に異なる特徴を持っているが、講座を通して触れた竹野と日本海は、本当に素晴らしい場所であった。スキンドビングをする中では非常に多くの生きものを見ることができ、童心に返ったような気持ちになった。そして日本海側の魅力は、きれいな海だけではない。リアス式地形を持った竹野の大浦湾は地形が非常に美しく、今回は訪問しなかったものの、猫が寝転がっているように見える猫崎半島など、魅力あふれる場所が多数存在する（この辺りは、山陰海岸ジオパークにも登録されている地域である）。全体を通して竹野についてたくさん知ることができ、とても良い経験であった。

そしてもう1つ印象的であるのは、この講座を通して海での環境教育に力を注いでいる人、施設の存在を知ることができた点である。本講座では、和田先生をはじめとして非常に多くの方々にお世話になった。先生方のお話の中では、海や生きもの、地元に対する熱意が伝わってきた。その熱意が私たちにも伝わり、このような良い場所があることをもっと多くの人に知ってほしいということを強く感じた。

今後の展望

メンバーの多くは、兵庫県立大学の学生団体「いきものずかん」に所属している。この団体では、紙芝居を用いた子どもたちへの環境教育を主に行っているが、環境教育を行うには、自らが知識を持っていることが大前提となる。このベースとして活かせる知識、そして経験を、私たちは本講座を通じて増やすことができたと考えている。これは非常に価値のあることであるし、今後の環境教育活動の中で、より分かりやすい環境教育ができるように活かしていきたいと感じている。

また、本講座が行われた後、特に熱意のあるメンバーが集まって、兵庫県立大学内でダイビング（マリンスポーツ）部を設立しようという話が出た。このダイビング部の活動には引き続き和田先生にかかわっていただいております、2016年10月23日にダイビング部の初動として兵庫県姫路市の家島でスキンドビングを行った。今後は、ダイビング部の活動をより充実させ、自らも海に入ることによって経験を積むとともに、様々な人々に海の魅力、日本海の魅力、そして兵庫の魅力を伝えることができるように、活動を続けていきたいと思う。

謝辞

講座内では、和田年史先生（人と自然の博物館）をはじめとして、原口展子先生（島根大学汽水域研究センター）・小崎富士夫さん（竹野スノーケルセンター長）・宇野政美さん（竹野スノーケルセンター / パークボランティア）やそのほかにもパークボランティアの複数の学生さんなど、様々な方に熱心なご指導をしていただきました。ここに感謝の意を表します。